

(2024年5月21日発行)

日本口腔顔面痛学会理事長 小見山 道

広報委員会担当理事 山崎 英子/委員長 池田 浩子

今回は、2024年3月3日に行われた日本いたみ財団の第5回「いたみ専門医」認定試験と先生のこれまでの歩みについて、みどり小児歯科の和気裕之先生に報告していただきます。

## 一般財団法人・日本いたみ財団の「いたみ専門医」を受験して

みどり小児歯科・本学会専門医/名誉会員 和気 裕之

はじめに、昨年名誉会員に推戴して下さいました評議員会並びに会員諸氏に感謝を申し上げます。大変光栄に思っております。さて、今回71歳で日本いたみ財団の「いたみ専門医」認定試験に挑戦し合格する事が出来ました。これを機に関係委員会から、ニュースレターへの寄稿の機会を頂きましたので、私の今日までの道程と背景を少しお話しさせて頂き、続いて第5回認定試験について述べさせて頂きます。

### 1. はじめに

私の慢性痛との関わりの原点は、東京医科歯科大学歯学部病院（第一口腔外科、現在：顎顔面外科）で宮岡 等先生（現在：北里大学名誉教授）と立ち上げたリエゾン外来である（写真1）。当時（1992年）は、歯科医師の中で“リエゾン”の用語を知るものはほとんど居ない時代であった。患者は、私の専門が顎関節症であったことから、その頻度が高かったが、その他、BMS/舌痛症、非定型歯痛（持続性特発性歯痛）、口腔セネストパチーなどであった。口腔外科を受診した患者を精神医学的側面から診ることで、目から鱗が落ちる瞬間を経験させて頂いた。

その後、日本大学松戸歯学部病院の頭頸部外科へ招聘されてリエゾン外来を開始した（1999年）。そして、後に出来た「口・顔・頭の痛み外来」は、歯科医、脳神経外科医、耳鼻咽喉科医および精神科医が揃った先駆的な口腔顔面痛の集学的診療外来となった（写真2）。

2002年には神奈川歯科大学病院の「かみ合わせ外来（玉置 勝司先生・現在：神奈川歯科大学特任教授）」に招聘され、また、東医歯大方式を踏襲した「咬み合わせリエゾン診療科」では、咬合違和感の患者を中心に宮地 英雄先生（現在：こころのホスピタル町田院長）と診ることになった（写真3）。この外来も他大学からの紹介患者が少なくなかった。咬合違和感症候群の名称は、ここで起草され日本歯科補綴学会で定義された。

写真1. 東医歯大歯学部病院（第一口腔外科）のリエゾン外来の診療風景（写真中央：宮岡等先生、右：筆者）



1992年当時は、まだ東医歯大にはペインクリニックも歯科心身診療科もなかった。

（読売新聞の「医療ルネサンス」で紹介された）

写真2. 日本大学松戸歯学部病院の「口・顔・頭の痛み外来」の入り口（写真左：小見山 道先生・日本大学松戸歯学部教授/痛み歯科外来責任者，右：筆者）



筆者の定年退職に伴う最終講義当日（2022年11月）

写真3. 神奈川歯科大学病院の咬み合わせリエゾン診療科（写真右：宮地 英雄先生，左：筆者）



咬合違和感患者に特化したリエゾン診療の風景（2004年）

その後は、北海道大学病院の高次口腔医療センターで心身医学的医療面接の指導、また、長崎大学病院の「オーラルペイン・リエゾン外来」の立ち上げのサポートをさせて頂き、現在も長崎大学ではBMS/舌痛症の神経生理学的研究チームに加えて頂いている。

一方、歯学部学生と研修医に対する講義は、「心身医学や心身症」をタイトルに全国の7大学で行ってきた。そして、心身医学・口腔顔面痛学・顎関節症治療学を統合して舌痛症・非定型歯痛・顎関節症・咬合違和感症候群などについて解説してきたが、コンセプトは疾患を bio-psycho-social model として捉えて対応することである。講義の最後は、「患者の話しをしっかりと聴くこと、必要な検査をすること、その関係を検討すること、そして、ホスピタリティを発揮すること」で締め括っている。

現在は、複数の大学での講義の他に歯科開業医向けの web セミナーを開催し、また、みどり小児歯科（横浜市）では、主に認知行動療法を応用した対応（自費カウンセリング）も行なっている。

## 2. 日本いたみ財団の認定制度と試験について

さて、私は45年以上診療してきたが、今でも非菌原性歯痛だと判断し対応して、実は菌原性だったという経験をする事が、その一方で逆のこともある。つくづく臨床は慎重さと謙虚さが大切だと思う。そして、「慢性痛患者を診ることは、その人の人生を見ることであり、人とは何かを追求すること（これは難治性の咬合違和感患者にも通ずる）」と考えている。そこで今回、さらに慢性痛患者の診療に責任を持つため、また、自己研鑽を目的に「いたみ専門医」認定試験を受験した。

日本いたみ財団のHPによると、認定制度は「慢性疼痛で困っている多くの患者さんをサポートしていくという社会的な要請に応えるため、2021年度より『いたみ専門医・専門医療者』と『いたみマネージャー（PAM）』の認定制度を設けることとした」とされている。ここで、「いたみ専門医」は医師と歯科医師の資格で、「いたみ専門医療者」は、その他の看護師・保健師、理学療法士などの医療者が対象である。また、「いたみマネージャー」は、医師・歯科医師の他、薬剤師・看護師・理学療法士・公認心理師・歯科衛生士など多くの医療者が取得することが出来る。

そして、「いたみ専門医・専門医療者」は、患者の病態評価、治療計画の立案、治療の実施（集学的治療を含む）を行い、痛みでお困りの患者さんに対してより専門的にアドバイス、生活に目を向けたトータルマネージメントをサポートし、必要時には連携医療機関を紹介する、一方「いたみマネージャー」は、患者と医師の間のコミュニケーション支援を行うとしている。

試験問題は、「疼痛医学」、「痛みの集学的診療：痛みの教育コアカリキュラム」、「慢性疼痛診療ガイドライン」をもとに作成される（写真4）。ちなみに私の受験勉強期間は約3か月で、主に「疼痛医学」と「慢性痛のサイエンス」（写真5）で勉強し、また、空いた時間にスマホでYouTubeの「北原先生の痛み塾」（北原 雅樹先生・横浜市立大学附属市民総合医療センターペインクリニック）を視聴していた。

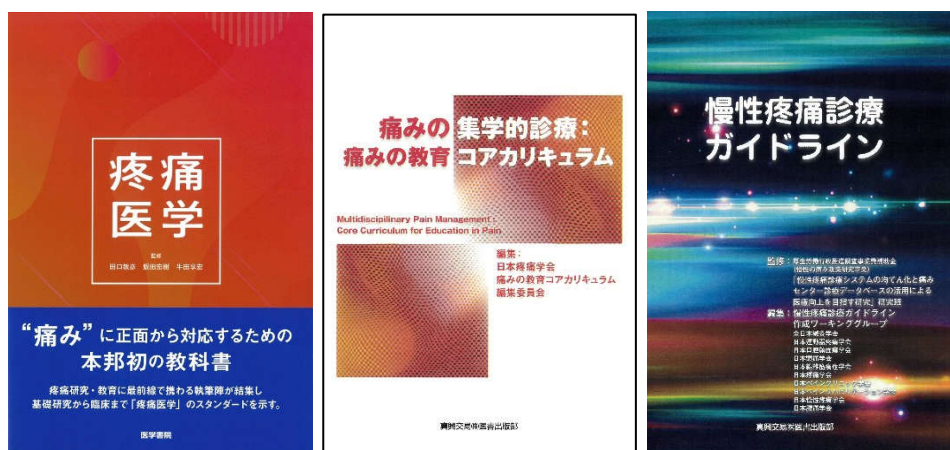
当日の東京会場には10名の受験者が来ており、皆、開始直前まで赤い参考書に目を向けているのが印象的だったが、私は残念ながらその時までこの「疼痛医学」のダイジェスト版である「いたみの教科書」の存在を知らなかった（写真5）。試験は60分間に50題（多肢選択）で、ほぼ全ての領域から出題されており見直す時間は無かった。結果は、正解が分からなかった問題が約20%、不確かなものが約20%、そして、自信を持って解答出来たのが約60%で、辛くも合格させて頂いた感がある。

#### 写真4.

左から、田口 俊彦他監修：疼痛医学。医学書院、東京、2020。

日本疼痛学会痛みの教育コアカリキュラム編集委員会編集：痛みの集学的診療：痛みの教育コアカリキュラム。真興交易、東京、2016。

慢性疼痛診療ガイドライン作成ワーキンググループ編集：慢性疼痛診療ガイドライン。真興交易、東京、2021。



認定試験問題は、上記の3冊をもとに作成され出題される。

## 写真 5.

左が、半場道子:慢性痛のサイエンス第2版. 医学書院, 東京, 2023.

日本いたみ財団編集:いたみの教科書. 医学書院, 東京, 2021.



受験者は、まず右側の「いたみの教科書」で勉強することが適当と思われる。「慢性痛のサイエンス」は私にはやや難解であるが、名著であり愛読している。

日本いたみ財団の事務局によると 2023 年の第 4 回認定試験までの合格者は、「いたみ専門医」が 55 名（医師 37 名，歯科医師 18 名），「いたみ専門医療者」が 53 名（理学療法士 43 名，作業療法士 2 名，看護師 4 名，公認心理師 3 名，薬剤師 1 名），「いたみマネージャー」が 173 名（医師 28 名，歯科医師 16 名，理学療法士 47 名，作業療法士 6 名，看護師・保健師 36 名，薬剤師 13 名，公認心理師 9 名，鍼灸・マッサージ師 5 名，社会・介護福祉士 5 名，柔道整復師 6 名，管理栄養士 1 名，准看護師 1 名）である。なお，第 5 回の合格者数は現時点で公表されていない。

現在，いたみ財団には，本学会から小見山 道先生（国際交流委員会），佐久間 泰司先生（教育委員会），椎葉 俊司先生（認定委員会），松香 芳三先生（普及啓発委員会）が各委員として就任している。受験には，本学会学術大会への参加・発表等のほか，厚労省慢性疼痛診療システム普及・人材モデル事業「慢性疼痛診療研修会」ないし，いたみ財団が主催する「医療者研修会」への参加が必要となる。受験を希望される先生は，いたみ財団の HP ([https://nippon-itami.org/itami\\_certification\\_exam/](https://nippon-itami.org/itami_certification_exam/)) で詳細を確認した後，本学会の「痛み専門医療者資格審査委員会／認定試験資格審査委員会（大野 由夏担当理事）」でサポートして頂けるので事務局へ問い合わせを頂きたい。

### 3. おわりに

日本いたみ財団の「いたみ専門医」の認定制度は 2021 年に開始されたばかりで，上記のように有資格者はまだ少数であり，社会的な認知度はあまり高くないが，医師と歯科医師が共通の希少な資格であり取得する意義が大きいと思われる。会員の先生方が本学会認定医や専門医と共に「いたみ専門医」を有することで，さらに慢性痛患者に貢献することが出来，そして，活動範囲が広がると考えている。

最後に，今回，ニュースレターの機会を与えてくださった理事長の小見山 道先生，痛み専門医療者資格審査委員会／認定試験資格審査委員会の大野 由夏先生ならびに広報委員会の山崎 英子先生，池田 浩子先生に感謝を申し上げます。本レターが少しでも若手の先生方のお役に立てば幸いです。（連絡先：みどり小児歯科 045-982-7977，E-mail：aobakumidori@gmail.com）

---

## 【和気 裕之先生のプロフィール】



### 【略歴】

1978年 日本大学松戸歯学部卒業，東京医科歯科大学歯学部第一口腔外科学講座に専攻生として入局

1981年 みどり小児歯科開業（横浜市）

1999年 歯学博士（東京医科歯科大学：「顎関節症患者の不安と抑うつに関する心身医学的研究. 口科誌」）

大学での主な活動：

2001～2023年3月（定年退職）日本大学・客員教授

2006～2014年 長崎大学付属病院・臨床教授

2010～2024年現在 北海道大学病院・客員臨床教授

2014～2018年 神奈川歯科大学付属病院・臨床教授

2014～2024年現在 長崎大学歯学部 非常勤講師

2018～2024年現在 昭和大学歯学部・客員教授

2018～2023年3月（定年退職）東京医科歯科大学付属病院・臨床教授

2018～2023年3月（定年退職）神奈川歯科大学・客員教授

2020～2024年現在 千葉大学大学院医学研究院・認知行動生理学・非常勤講師

2023～2024年現在 岡山大学歯学部・非常勤講師

主な学会活動：

2016～2017年 一般社団法人日本顎関節学会・副理事長

学会の資格と表彰：

一般社団法人日本顎関節学会;指導医，歯科顎関節症専門医，名誉会員

一般社団法人日本口腔顔面痛学会;指導医，口腔顔面痛専門医，名誉会員

一般社団法人日本心身医学会;功労会員

一般財団法人日本いたみ財団;いたみ専門医

---

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: [jsop-service@onebridge.co.jp](mailto:jsop-service@onebridge.co.jp)